

平成23年度 第1回新ひょうご子ども未来プラン推進協議会 概要

日 時：平成23年11月24日（木）10:00～12:00

場 所：県公館 第1会議室

1 子どもを産み育てる

- まちの子育てひろばをはじめ、様々な取組を展開しているが、そこに参加した親子がどのように変わったかという点についてのデータがあれば、子育て中のお父さん・お母さんに対しては説得力があるデータになる。
- 「まちの保健室」では、明らかに一度来た人が、自信を持って子育てが出来るようになったというような話は聞いている。参加することで親の子育て力は高まっていると感じている。また、被災地から兵庫県に避難している方たちにもこのような取組を知らせて頂きたい。
- 「まちかど子育て相談員」について、受講希望者が多く、ニーズは高い。こういう講座をこれからも実施して、市民の中に子育て支援に携わる人がもっと増えたら良い。また次のステップとして養成された相談員のこれからの活動について、NPOなどと一緒に考えて頂きたい。
- 「まちかど子育て相談員」の講座を受講したような人が、地域のリーダーとしてきめ細やかに、フットワーク軽く動いてくれると、孤立するお母さん方も少なくなって、虐待防止にも繋がっていくのではないか。
- 「絵本の伝承師やまちの寺子屋師範塾などを受講すると地域で活動する際に役に立つ」ということをきっちりと伝えて広げていただきたい。
- 遊びの伝承師やまちの寺子屋など様々なプログラムを展開してもらっているが、これはスタッフの資質向上にすごく助かっている。さらに虐待や発達障害で悩んでいる親に対応するスタッフに対するフォローや資質向上についても考えて欲しい。
- 「ひょうご子育て応援メール」をもっと活用してはどうか。内容についても親しみやすいものにするなど工夫してほしい。思い切って子育て情報を持っている地域の子育て支援のNPOなどに任せたらどうか。
- 社会で子どもを育てるということも大切だが、子どもを育てる責任は第一義的には親や家族である。これを我々も含めてもう一度認識しなくてはいけない。
- 子育て支援団体やNPOを中間支援するNPOが必要。また、各地域の子育て支援団体の活動に関する情報提供が十分でない。事業委託や協働事業等を通じ、各団体のネットワーク化や情報提供を行う子育て支援専門の「中間支援NPO」の育成にも力を入れて欲しい。

2 子どもの成長を支える

- 幼稚園の現場で広場や相談に携わっているが、年月を重ねてきて、その効果というのが目に見えて出てきていると実感している。
- こども医療費助成事業は有効な施策であり、厳しい財政状況ではあるが、取組の継続に努力いただきたい。

3 豊かな人間性を育む

- 若者ゆうゆう広場や子どもの冒険ひろばは、子どもの育ちに非常に有効な施策である。これらの事業に対する助成について、継続、拡充してほしい。
- 教育委員会で実施されている道徳教育は大変重要な事業である。企業内でも人間的な

部分の教育も考えていかないといけないが、若いときからそのような教育をすることが大切である。

4 若者の自立を支える

○地域のこうのとりの大使が企画している出会いイベントでは、男性は毎回沢山の応募があるようだが、女性は一度来るともう次は来ないというような状況があり、今後取組を工夫していってほしい。

5 子育てと仕事の両立を支援する

○事業所内保育施設の補助において、工業団地などで複数事業所での活用が広がればさらに良い。

○少子化対策等への理解は企業の中に広がってきているが、小規模の企業ではまだ十分浸透していない。小規模な企業への啓発をどのようにしていくかということが今後の課題である。

6 “良きおせっかい社会”による家庭応援

○親子の居場所づくりや気軽に子育て相談できる場として、まちの子育てひろばなどを展開しているが、子育てに悩んでいて、そのようなところにも出てこない親からの相談が虐待相談件数の増加という形で現れているのではないかと感じる。

○市町の役割として実施しているショートステイ事業についても今後情報提供をお願いしたい。

○民生委員を知らない若いお母さんがいる。子育て支援に携わる様々な団体が地域の活動の中で一堂に会して親に知ってもらうような機会があってもよいのではないかと感じる。

7 全体的な意見

○兵庫県の子どもや青少年分野の取組は他の府県よりも進んでいる。取組の更なる充実を図ってほしい。

○いろいろな分野の施策に言えることだが、教育委員会も含めて、横のつながりから色々なところに波及させて、他のところとタイアップできるような形をとればもっと広がりが出て良いのではないかと感じる。

○子育て支援において、教育委員会の役割は非常に大きい。教育委員会の取組をもっと充実させるとともに、知事部局の取組と一緒に進めてほしい。

○パイロット事業という形で期限を区切ってメリハリを付けて事業展開し、事業内容や実施方法などをきっちりと評価をして、地域特性に応じた展開を図るということも考えられるのではないかと感じる。

○国自体が子育て支援にかかるシステムについて整備・再構築に着手しているが、兵庫県で実施している事業は効果が高いということを是非全国的にも発信してほしい。また、兵庫県の事業が全国的に逆に展開されていくという中で、財源というものを確保して頂くことが大事なのではないかと感じる。

○県の実施している子育て支援事業全体が、様々な事業を展開して種を蒔いていくという段階から、種を蒔いて芽生えたものをいかに育てていくか、その中の良いものをどう高い木に育てていくのかという次の段階に入ってきているという印象を持った。

○優れた事業があるものについては評価していき、そういうものをよりまとめて、評価からモデル化していき、それを他の地域にも広げていく試みが必要ではないかと感じる。